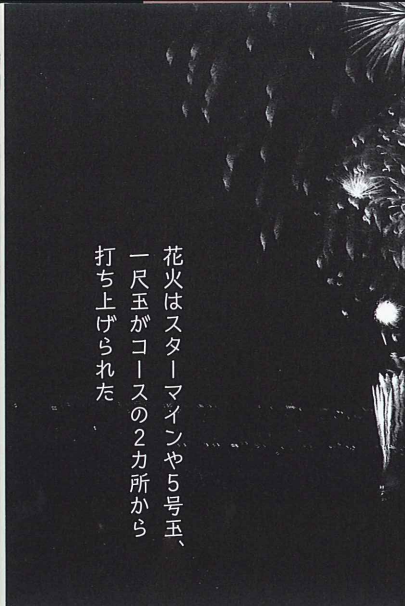


初の「一尺玉」も打ち上げられた!

鹿沼さつき祭り応援で

鹿沼72CC栃木から

新1千発の花火



花火はスターメインや5号玉、一尺玉がコースの2カ所から打ち上げられた



開会挨拶で鹿沼グループ福島範治代表「たくさんの方々の協賛をいただいた。コロナ禍での皆様のいろいろな想い、夢、希望を乗せて、一尺玉を上げたい」



佐藤信鹿沼市長も駆けつけた



栃木県ゴルフ場協議会の松本典文会長が乾杯の首頭を取った

新型コロナの関係から、テラス席(ディナー付き)チケットと立見チケットを限定販売。昨年9月の不完全燃焼の花火を経験した観客はとりわけ感動した様子だった

5月の最終土曜日である29日夜、鹿沼グループ(福島範治代表)の鹿沼72カントリークラブ(45ホール、栃木県鹿沼市榎木町1475)から約1000発の花火が上がった。さつきの産地として有名な鹿沼市では半世紀前から、毎年5月末より6月初旬にかけて「鹿沼さつき祭り」を開催。その協賛行事として祭りの始まりに黒川河川敷で花火を上げているのだが、昨年、今年と新型コロナのために開催中止を余儀なくされたことを受け、鹿沼グループが「さつき祭り応援」としてゴルフコースで花火を上げることに決めたというわけだ。

同CCでは、昨年9月にも地元の皆様を元気にする想いで、チャリティ花火を初めて打ち上げている。しかし、当日のお天気が思わしくなく、花火は煙と音ばかりで殆ど見ることができなかつたという。天候の事情とはいえ、二度の失敗は許されない。ましてや今回は、さつき祭りの花火大会でも上げたことのない、「一尺玉」(10号玉)を上げるのだから。福島代表をはじめ同グループのスタッフは、無事に成功することをただただ祈る。周りが暗くなるのを待って開始のアナウンスが流れる。それとともに、筑波コースの1番、3番ホールフェアウェイから景気よく花火が次々と上がっていく。クラブハウスのテラス席やクラブハウス前の立見エリアで300人ほどが見上げる中、花火は、冷たい風がやや強く流れて雲がかからずはつきりと夜空に咲いた。一尺玉の花火は観客を覆い被さんばかりの迫力。ラストは怒涛のラッシュで幕を閉じた。成功した。一瞬の静寂の後、観客から心から湧き上がる歓声と拍手が起こった。鹿沼の街の人々も花火に魅了されたことだろう。